

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私は、当初から、もうそのような気持ちで取り組んでおります。やはりいじめだけではなくて不登校、非常にその子にとって不登校というのは、非常に大変なつらい環境であるわけであります。そういったことのないようにしていかななくてはいけないわけでございまして、やはり私はそういったところに力を注いでいきたいという形の中から、愛着と誇りの持つ教育になっていくように取り組ませていただいております。これからもそのような形で考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

ありがとうございました。

以上で、一般質問を終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、笠原議員の質問が終わりました。

担当入替えのため、14時25分まで暫時休憩といたします。

〈午後2時17分 休憩〉

〈午後2時25分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。〔8番 新保峰孝君登壇〕

○8番（新保峰孝君）

日本共産党の新保峰孝です。

私は、新型コロナウイルス感染症対策について、糸魚川市介護保険事業計画について、地域農業の振興についての3点について、米田市長のお考えを伺いたいと思います。

1、新型コロナウイルス感染症対策について。

現在、世界で流行している新型コロナウイルス感染症は、昨日、13日夕方時点で世界での感染者数は7,173万人、死亡者数161万人となっております。最大の感染者数、死亡者数となっているアメリカでは、共同開発されたワクチンの緊急接種が始まるとのことです。

日本では、昨日17時30分現在、NHKのまとめでは、感染者数18万51人、死者数2,591人となり、このまま感染が拡大すれば、医療体制が危機的状況に陥る地域も出てくる状況となっております。上越地域でも感染者が広がっております。現段階では、年末から年始めにかけての取組が重要と言われております。

そこで伺います。

(1) 糸魚川市における新型コロナウイルス感染症対策の現状は、どのようになっているか。

- ① 相談体制は、どのように活用されているか。
- ② PCR等検査体制の活動状況はどうか。
- ③ 隔離・保護施設の確保については、どのようになっているか。
- ④ 入院・病床確保等の医療体制は大丈夫か。
- ⑤ 市、保健所、開業医・病院との連携は機能しているか。

(2) 糸魚川市内における新型コロナウイルス感染症に対する経済対策の効果及び現状を、どのように捉えているか。

(3) 感染者数が過去最高となっている現状を踏まえた感染症対策、経済対策の強化が求められていると思うが、今後の対策をどのように進める考えか。

- ① 新型コロナウイルス感染症拡大防止策の強化について、どのように考えているか。
- ② 感染拡大防止休業協力金等、いま一度、対策強化のための独自施策を行う必要があるのではないか。
- ③ 経済対策として、仕事がない業者や市民向けに、市所有施設の小修繕や公園の清掃・除草等、直接市発注の仕事づくりを行ったらどうか。
- ④ 国民健康保険税、介護保険料等の減免は、適切に対応できているか。

2、糸魚川市介護保険事業計画について。

(1) 施設介護と在宅介護の現状と課題について、どのように考えているか。

- ① 施設への入所希望者数、在宅介護を受けている方は、それぞれ何名か。
- ② 介護従事者数及び職種と不足数は、把握されているか。
- ③ 施設への入所を希望しても入れない原因は、どこにあると考えているか。
- ④ 在宅介護を増やしていくことができない理由は、どこにあると考えているか。

(2) 第8期介護保険事業計画については、どこまで検討が進んでいるか。

- ① 次期計画は、団塊の世代が後期高齢者に移行していく時期に重なると思います。それらを踏まえた計画として検討されていると思うが、どのような検討がなされているか。
- ② 特別養護老人ホーム増床計画が、土地の確保ができなくて増床できなかったことがあったが、今後の計画で分散しても増床を考えるべきではないか。

(3) 高齢化が進む今後の糸魚川市の介護保険事業計画は、どのような考え方でつくっていく考えか。

- ① 在宅介護を増やしていくため、新しい住宅を建てるときから市民に考えていただくため、市が推奨する介護を考えたモデルハウスを設置すべきではないか。
- ② 24時間在宅介護が可能な住宅に改修・改造するための補助事業を、さらに充実させることが必要ではないか。

- ③ 老老介護への対応を強化するための住宅改修等支援については、どのように考えているか。
- ④ 高齢化が進む中で、介護事業者への独自の支援強化が必要ではないか。
- ⑤ 健康づくりの取組を強化すべきではないか。

3、地域農業の振興について。

(1) 市内農業の現状を、どのように捉えているか。

農業の衰退は、耕地、山林等の維持・存続だけでなく、中山間地域そのものの存続を一層難しくします。災害防止の面からも大きな影響があると考えます。現状をどのように捉えているか。

(2) ほとんど稲作農家という現状をどのように捉え、今後、高齢化と地球温暖化が進む中で、どのような振興策を考えているか。

- ① 後継者問題では、どのような対策、取組を行っているか。
- ② 温暖化対策では、どのような取組を行っているか。
- ③ 地域資源を生かした新たな仕事づくり、法人が受託できない農地や山林、耕作放棄地等を活用した起業に対する支援を検討すべきではないか。
- ④ 地球温暖化が進む中で、栽培環境の整備（暗渠排水の推進、畦畔の雑草対策等）、品種や温暖化対応技術の習得等、考えていく必要があるのではないか。
- ⑤ 高齢化が進む中で、経営形態を多様化させるのは難しい問題もありますが、耕作放棄地等を活用した作目、園芸の検討、中山間地の資源を生かした取組を強化する中で、都市との連携を通じて都市部の関心のある青年を呼び込むことを研究すべきでないか。

(3) 能生地域の漁業で行われている、半分漁業半分Xのような形態もあります。他地域からの人材呼び込みはどのように行い、今後どのように進めていく考えか、伺いたいと思います。

以上、1回目の質問といたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

新保議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、かかりつけ医と保健所にて相談の対応がされております。

2つ目につきましては、検査数は少ない状況であります。

3つ目と4つ目につきましては、県において確保しております。

5つ目につきましては、保健所、医師会、糸魚川総合病院とは、常に情報交換や協議を行っております。

2点目につきましては、経済対策は一定の効果が見られたものと考えており、現状は緩やかな回復傾向と捉えております。

3点目の1つ目につきましては、一人一人がマスク、手洗いなどの新しい生活様式を実践していくことが、感染拡大防止に最も有効であると認識いたしております。

2つ目につきましては、これまでも様々な経済対策を行っており、今後も状況を注視しながら対応してまいります。

3つ目につきましては、本定例会においてプレミアム商品券発行事業や住宅店舗リフォーム支援事業の補正予算を提案させていただいております。

4つ目につきましては、国の基準に基づいて適切に対応しております。

2番目の1点目の1つ目につきましては、特別養護老人ホームの入所申込数は、本年2月1日現在363人となっており、在宅介護サービスは約1,800人の方が利用されております。

2つ目につきましては、介護保険事業アンケートにより把握いたしております。

3つ目につきましては、入所申込者の緊急度や優先度によるものと捉えております。

4つ目につきましては、在宅介護サービスの利用者は増加傾向にあります。

2点目の1つ目につきましては、2025年を見据え、さらなる地域包括ケアシステムの増築を進めるとともに、可能な限り住み慣れた地域で自立した生活が続けられるよう取り組んでまいります。

2つ目につきましては、施設の増設は減少する高齢者数や介護保険料への影響を考え、慎重に対応してまいります。

3点目の1つ目につきましては、モデルハウスの設置については考えておりません。

2つ目と3つ目につきましては、国・県の助成制度とは別に、市独自の在宅介護応援リフォーム事業を実施しており、介護支援専門員等とも連携し、相談や周知を行っております。

4つ目につきましては、新型コロナウイルス感染症対策等、緊急的な対応を要する事案については、状況を捉え、支援策を講じております。

5つ目につきましては、保険事業と介護予防を一体的に行い、高齢者の健康づくりに取り組んでおります。

3番目の1点目につきましては、農業は地域活性化や災害防止にも重要な役割を担っているものと考えております。

2点目の1つ目につきましては、国等の支援制度を活用しながら関係団体等と連携し、担い手確保に取り組んでおります。

2つ目につきましては、フェーン予測情報や被害防止対策について周知いたしております。

3つ目につきましては、国等の支援制度も活用し、調査研究してまいります。

4つ目につきましては、耕作条件の改善をはじめ、気象条件に応じた栽培管理等の推進について関係団体等と連携して取り組んでおります。

5つ目と3点目につきましては、農業体験や首都圏で開催される就農相談会への参加、地域の地域おこし協力隊事業等に取り組んでおり、これらの取組を検証する中で進めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

最初の新型コロナウイルス感染症対策の関係からお聞きいたしたいと思います。

現状ですが、相談されている件数・内容、そういうふうなものがどのように変化してきているか、その点についてお聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

発熱などの症状がある場合、相談とか受診の方法につきましては、基本的には今までと変わりませんけれども、今度はかかりつけ医、そういうものも受診なり検査を行うようになっております。そういう問合せが主に糸魚川保健所に寄せられておりまして、これまで約1,200件程度の相談があるというふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

検査体制と検査能力が、どの程度の感染拡大まで対応可能か、現状は検査能力の何割くらいの活動状況か聞かせていただきたいんですが。上越地域全体で対応しているような形になっていないかと思っておりますので、その辺のところを聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

検査の体制でございますけれども、これについてもこれまで本議会等でもご説明してきましたように従来の帰国者・接触者外来、それからPCR検査センターにおいて行う体制が整っております。

ただ、市内におきましては、コロナの感染症が拡大しておらない状況もありまして、検査件数というのは少ない状況であります。

この検査体制というのは、上越地域というよりも、むしろ糸魚川地域できちっと確立をしていくということであります。今までの体制に加えまして、先ほども言いましたように身近な開業医におきまして診療でありますとか検査の医療機関として検査いただくような体制が整っておるところであります。今のところは、これで特に問題ないというふうに理解しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

隔離保護施設の確保については、十分できている状況と理解してよろしいですか。この施設につ

いては、これは先ほどの検査体制というのは、糸魚川市の場合は糸魚川市でやる。ただ、入院とかになった場合は、また上越地域で協力しながらやっていくということだと思っております、その辺のところはどのようになってるか聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

入院する病床でありますとか、宿泊療養施設におきましては、ご案内のように県において整備しております。この12月の段階ですと、県全体で宿泊療養施設200床、それから病院病床で456床、合計656床というような数字になっております。今現在、入院されておられる方は70名、県内全体で70名、ただし新潟市は除きます。うち重篤者はゼロ名、それから宿泊療養中の方は13名ということで、今のところは十分余裕があるというふうに認識しております。上越圏域におきましても、余裕のある状況だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

そうすると新潟県県内は、新潟市の場合は、市としてある程度対応していると。そのほかのところは、県全体で対応していると、そういうことですね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

新潟市につきましては、政令指定都市で保健所を持っておりますので、新潟市は新潟市で対応しておるというふうに理解しております。

ただ、感染者が増えてきた場合については、新潟県、それから新潟市、共に協力をし合いながら入院でありますとか、そういう対応については協力し合いながらしていくものというふうに理解しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

市内においては、企業も福祉関係の職場も、あるいは飲食業関係等々、市民はそれぞれ緊張感を持って感染しないよう気をつけていると思いますが、一方で、Go To トラベルも推進されるなど、国政ではブレーキとアクセルを同時に踏んでいるような政策が取られており、感染拡大は全国に広がりつつあるのではないかと思います。

新型コロナウイルスに対するワクチンの接種が、アメリカで開始されるとのことですが、ワクチンが日本に届いて接種が始まるまでには、まだ時間がかかると思います。現時点で、糸魚川

市として感染拡大を防ぐためには、どこを徹底強化しなければならないと考えているのか。一般的には3密を避けると同時に感染地への往来、感染地からの移動は、規制されなければならないと考えますが、国の旅行に行こうキャンペーンが続いているときには、説得力が足りません。難しい状況ですが、どのようにお考えかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

国のGo To トラベル等につきましては、国のほうで適切に判断するものというふうに考えております。

ただ、感染の防止には、これまでもお願いしてきておりますけども、マスクの着用、手洗い、3密を避けるという市民の意識・行動に根差した基本的な対策が最も有効であると認識しております。引き続き感染防止疲れ、行動の油断が感染の拡大につながりますことから、市民の周知に努めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

感染症対策の強化の関連で、引き続き伺いますが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策については、この冬の時期こそ強化する必要があると思います。冬の時期に特に言われているのは、日照時間の不足によるビタミンDの不足から感染しやすい体調になること、気温が下がるとウイルスの寿命が夏より長くなること等ですが、当たり前のことを確実に行うことが大事だと思います。

先ほども言われましたけども、3密を避ける、マスクをする、低温・乾燥を避ける、換気をする、こういうふうなことを実行するだけでもかなりの効果が期待できるとのことです。部屋の湿度を40から60%にして、ウイルスの浮遊時間を短くする。室温を上げて、ウイルスの生存時間をなるべく短くするようにする。マスクをつけることで、微量感染により免疫力を少しずつ獲得する効果があることを実証できたと発表した研究者もいるとのことです。年末年始にかけ、今後どのように取り組まれるのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

基本は、私も答弁させていただきましたし、新保議員のほうからもありました。これまでやってきましたマスクの着用だとか手洗い、3密を避けるという基本行動、これが基本中の基本であるというふうに考えております。

ただ、これから年末年始を迎えるに当たりまして、お酒を召し上がるような機会もあるでしょうし、また、規制されて家族団らんという機会もあるわけがございますので、そこはやはり家族間であっても、また知り合いとの懇親であっても、適切な対応をしていただきながら年末年始を楽しん

でいただきたいということで考えております。この辺についても適切に周知をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

ほかのところの例でいいますと、これはどっちかということだと事業者向けということだと思んですが、神奈川県ではCO₂濃度測定器を飲食店に無償貸出しを行って、6週間貸し出して、その後、調達価格の4分の1で買い取ることが、事業者が買い取ることが可能にしてる。そういうことをやり始めた。

京都市では、換気、加湿等の補助金の募集を開始した、そういう事業を始めた。これはかなり幅広い品物が対象になるということでもあります。

糸魚川市の場合、こういう事業者対策等、先ほど市長答弁されて、独自策も取り組まれるということですが、これらのことも参考にしながら検討されることもいいんじゃないかと思いますが、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

市内の店舗等におかれましては、これまで独自に対策をされてる方、県の補助金を使われて対策をされてきた企業がかなりいらっしゃいます。現時点ではそのような取組は考えておりませんが、今後の状況によりまして、引き続き独自の対策も検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

経済対策に関連してであります。飲食店関係で既に辞めた店が何件かあると聞いております。これまでの市の独自対策も含め、経済対策の効果は出ていると思いますが、これまでを超える第3波が来ている中で、特に年末から年始にかけて、ブレーキをかけなければならない時期だと思います。そのためにも国の経済対策の強化を求めるとともに、感染拡大防止休業協力金のような対策強化のための独自施策が必要だと思いますが、いま一度、その考えを聞かせていただきたいと思ます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

現時点におきましては、市内での感染拡大が見られておりませんので、引き続き新しい生活様式に基づいた適切な行動をお願いしながら地域経済を回していく必要があると考えております。

なお、今後、全国的にさらに感染が拡大し、県内でも休業要請が発生する事態になった場合には、また独自の対策について検討してまいる必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

地方創生臨時交付金の追加なども報じられておりますが、追加財源が投入されれば、市の対策もやりやすくなると思います。ぜひ独自施策の検討を引き続き考えていただきたいと思います。

不況時の仕事づくりが必要ではないかと思えます。市で日雇の仕事をつくり、直接雇用するやり方も有効ではないかと思えます。小さい業者や個人を対象にした直接的経済対策であります。これまでの対策で対象にならなかった方たちをできるだけ救う方策が必要と思えますが、この辺いかがお考えか伺いたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

お答えいたします。

考えられることといたしましては、市の施設であったり、そういったものの小修繕でありますとか、掃除とかというのを考えられるんですが、いかんせん規模のほうも限られてまいりますし、また、これから冬季に入りますので、そういったもので外回りのことも限られてまいりますことから、今回につきましては、今の段階では考えてはおりません。

ただし、今定例会のほうで9号補正になるんですが、リフォーム補助金という形で小規模事業者の方にもできればということで、補正のほうを組ませていただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

この新型コロナの影響で、施設入所されている方たちは、一層不自由をしてるのではないかなというふうに思うんですね。クリスマス、あるいはお正月等のお祝いやプレゼント等、食べ物でもよいですし、そうでなくてもよいと思いますが、それらをプレゼントする。それを市内業者に発注する。そういうやり方も考えられるのではないかと思います。このような観点からの取組もあってもよいのではないかと思います。この辺いかがお考えか、伺いたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

お答えいたします。

今現在では、そういった考えのほうは持ち合わせておりませんが、また、状況に応じまして対応のほうは考えていければなどは考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

次に、2番目の糸魚川市介護保険事業計画について伺いたいと思います。

第7期の糸魚川市介護保険事業計画で、特別養護老人ホームの入所申込者の推移が記載されておりますが、平成29年の要介護3以上申込みは、在宅103人、医療機関48人、介護保険施設等164人で、総計315人となっております。平成26年から年々減少していると記載されておりますが、まだ大勢の方が入所を希望されている状況であります。その後の推移はどうなっているか、お聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

平成30年以降の入所の申込者数の推移を述べさせていただきます。

平成30年につきましては合計で378人、令和元年ですと367人、今年の2月につきましては、先ほど市長が申しあげました363人ということで、ほぼ横ばい等の推移となっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

施設入所を増やすことができない。一定程度増やす努力はされてきてるわけですが、かといって在宅介護を24時間対応にできるかといえば、それもできないということのようではありますが、高齢化社会というのは、老老介護への対応が求められてくるということではないかと思えます。この辺のところはどのようにお考えかお聞かせ願えますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

今年度、介護保険の事業計画を策定するに当たりまして、介護認定者に対しましてどういった方に介護を受けてますかといった質問をしております。やはりその内容を見ますと、60代以上の方の家族から介護を受けてるという方が、半数以上いらっしゃるという実態があります。そういった中でも住み慣れた自宅でサービスを受けるわけですが、デイサービスであるとか訪問介護といったサービスもありますが、時には家族が休むという中では、ショートステイといったものの組合せもしながら在宅生活を続けていっていただきたいというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

この間、ショートステイ用からの転換等で、特別養護老人ホームのベッド数が、一定増にはなっていると思いますが、第8期の介護保険事業計画で、もう少し増やすことができないのかどうか、お聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

ショートステイにつきましては、以前、能生地域で一時休止した施設もありましたが、それもこれまでに再開してきてるというふうな実態もございます。また、来年度から3カ年間の介護保険事業計画、こちらの中では認知症のグループホームの整備につきまして、現在計画の案ということで策定のほうを進めているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

前回といたしますか、市の要望・要請に応じて、50床増を計画した法人もあったわけですから、やれないことはないと思うんですね。もちろん今の課題としては、先ほど言われた認知症等、3つほど課題が挙げられておりましたけども、入所するためのベッドといたしますか、ベッド数の増、こういうのは前回、何年か前の場合は1か所の法人で50床ということでできなかったわけですが、それぞれの法人に幾つかずつ、今の人数の中で何とかやりくりできる範囲内で増やすことはできないかと、そういう要請というのはできないもんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

現在の施設の中で入所施設の枠を増やせないかといったご質問というふうに受け止めて、お答えさせていただきたいと思っております。

各入所施設につきましては、施設の面積であるとかといった基準がある中で、なかなか現在の施設の中で定員を増やすといったことが難しい状況にあるかと思っております。

またそのほか各整備につきまして、事業所のほうに聞き取りをいたしますと現段階では、なかなか従事者の確保等が先がなかなか見えない中で、すぐにある程度の施設整備を行うことは難しいといったご意見も頂いております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

介護を考えた住宅の建設を推進するために、市が新築あるいは空き家を活用したモデルハウスを設置すると。それらを高齢者の憩いの場所にしたら、例えば空き家を活用して、高齢者の憩いの場所にする。それをバリアフリーというか、介護を意識した造りにするとか、そういう活用の方法もあるんじゃないかなということでは言わせてもらったんですが、そういうふうな考え方というのは、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

高齢者の介護予防であるとか運動機能の維持のために、外から出る通いの場の設置というのが重要なことと捉えております。今ほど議員おっしゃいました通いの場とバリアフリーのモデル的なものとの合わせたものということにつきましては、少し研究もしてみたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

ぜひ検討していただきたいと思います。

今後の高齢化が進んでいくそういう状況、市内の状況を考えながら、一つは24時間在宅介護という考え方はあるのかということと、もう一つは、老老介護への対応強化ということで、高齢者のみの世帯が増えていくことは当然考えられるわけですよ。二人あるいは単身世帯が増えていく、こういうことに対する対応というのでも考えていかなければいけないと思うんですが、この辺のところはどのようにお考えか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

高齢者の人数というのは、ここ2年ほど前から減少傾向にあるものの、令和7年度の、いわゆる団塊の世代が75歳以上を迎えます頃には、認定者数というのが増えるというふうに推計をしております。そういった中でも家族の形態、例えば高齢者のみ世帯であるとか、高齢者の夫婦世帯というの、これからまだ増えるものということで推計をしております。

そういった中で、24時間の在宅サービスの提供ということでございますが、例えば夜間であるとか早朝の時間帯については、主に訪問介護であるとか看護を中心に、提供が現在もなされてるところでございますが、事業所への聞き取りだとか、先ほど申しあげましたアンケート調査を見ますと、

夜間とかそういった早朝の対応は少なく、仮に夜間である場合には、夕方に訪問しまして、翌朝まで心配のないように手当をするよう柔軟な対応を取ってるところでありまして、各事業者のほうでも、介護者のことを考えて、それぞれ時間帯の対応に当たっているところでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

介護事業者への支援の関係ですが、どこの法人なり事業所なりでも、なかなか十分な人材が足りているというところは、そう多くないんでないかなと。どこも難しい状況で頑張ってるんでないかなと思うんですが、こういうところに対する市の支援のやり方というのは、どういうふうな考え方で独自支援をやろうと、やってきたのか、やろうとしているのか。それともそういうのは特に考えていないのか、市の考え方聞かせてもらえますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

介護保険事業所に対しましては、1年に1回アンケート調査というのを行いまして、それぞれ不足の状況というのを聞き取りをしているところでもあります。そういった中では、やはり職員の不足状況につきましては、不足しているというところが約6割ぐらいというふうな事業所のアンケートから見えてきております。

そのような中で市といたしましては、修学資金の貸与事業であるとか、資格取得の助成事業によりまして、資質の向上を図るといったことでの支援を行ってきているところがございます。そういった中でも、まだ不足してるというご意見がありますので、こういったものが不足解消につながるのか、改めて事業所のほうとも連携を進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

3つ目の地域農業の振興について伺いたいんですが、この前の前段の一般質問でもございましたけども、糸魚川市の、これは統計要覧の数字でありますけど、2005年、平成17年に市町合併時、農業就業者数1,808人が、10年後、2015年の平成27年、1,025人、10年間で57%に減って、高齢化も進んでいるという状況であります。水田の経営耕地面積は、合併時の1,480ヘクタールが、10年後、1,202ヘクタールとなって、278ヘクタール減、81%に減ってるという状況であります。高齢化などで耕作できなくなった農地、どのようになっているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

お答えします。

基本的には、集約と集積を重ねて、法人や大規模の方、また農業のできる方という、ちょっと限定的な話になってしまいますけども、そういった方々に担い手が移動していくというような形で考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

ほかのといえますか、市内の農業生産法人とか大規模農家とか、ほかにやってくれる方はいいんですけども、そういうところがない場合、あるいは条件が悪くてできない場合、放置されているところも増えてきているのではないかと思いますよね。それが一つあると思います。

農業生産法人の受託面積が増えていると思いますけども、その推移と現状、どういうふうに見ているか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

お答えします。

法人の受託面積につきましては、農林業センサスでご報告させていただきたいというふうに思っております。2010年、平成22年では、5法人の68ヘクタール、2015年、平成27年では、8法人の158ヘクタールということであります。これを経営面積の割合で比較いたしますと、2010年につきましては、法人の割合が4.4%であったものが、2015年、27年では10.8%に増えてるということでございます。

また、先ほどの法人が受けていない田んぼ等々あるということですが、市としましても、圃場整備などを推進する中で、やはり効率化の取組をしているところであります。その中で、どうしても法人であったとしても、渡辺議員のときにもご報告をさせていただきましたけども、経営であったり集積であったり連担制であったり、適切な人数の配置ができるかどうか、また、設備投資ができるかなど、判断された上でどうしても手の入れることができないということもあるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

農業の衰退は、最初の1回目のところでも少し触れましたけども、山林等の維持管理を一層難しくするとともに、災害防止の面からも大きな問題となっているのではないかと思います。農道、農業用水路、排水路、畦畔等の維持管理の現状をどのように捉えているか。これはさっき言った農業

の衰退ということとはちょっと違いますが、その中身になりますけども。高齢化によって先ほど言われてましたように、農業法人や大規模農家へ委託・集積が進んでも、解決できない課題が残ると思うんですよね。この後、今の農業を支えてる中心の主体は、70歳以上の農業者ではないかと思うんです。この法人あるいは大規模農家にどんどん集積されていく状況が進んでいくと、結局できるところとできないところが出てくると。できないところというのはどういうところかというところと、手がかかるところがどうしても難しくなってくる。その辺のところをどういうふうに捉えていらっしゃるか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

お答えします。

農地は守っていくべきものというふうに判断しております。

ただ、その中で限られた担い手の中で農家を続けていくという現実の中では、そういったできるところ、できないところの区分というのが必要になってくるのかなというふうに思っております。ただ、できないところであったとしても、それを地域の皆様の中での話し合いなどで、圃場整備であったり、いわゆる基盤整備であったり、そういった取組によって耕作条件をよくするとか、そういった取決めも考えられるところであります。

ただ、やはり高齢化ということになりますと、圃場整備をするにしましても計画から実施までは10年というところがございますので、先ほど申し上げたとおり、やはりこれからの農業の中では守るということは大切でありますけども、その中で、言葉悪いですけども、取捨選択というところも出てくるのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

先ほど言った農道とか用排水路、畦畔の草刈りとか、維持管理というところに非常に手がかかると。そういうところに手が回らなくなってくる。そういうことも考えられるということをお願いしたかったところであります。

こういうふうな状況の中で、やはり都市部あるいは地域外の関心のある若い方たち、青年を呼び込むことが大事になってくるのではないかと思います。そのときに何を提案するのか。好きなようにやってくださいだけでは、人は集まらないのではないかと思います。半分、農林水産業、半分、趣味兼仕事でもいいのではないかと思います。何と何を組み合わせれば、こういうこともできますよと。幾つかの経営モデル的な構想を示す。あるいは組み合わせる素材、田とか畑、山林、自然等を見てもらうことも必要ではないかと思いますが、農業でも、やる気のある外部人材を呼び込む工夫が必要ではないかと思っております。いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

お答えします。

議員の言われるとおおり、農業でも、やはりできる人間、外部人材もしっかりと確保するというような取組が、今後必要になってくるということでございます。個人の、先ほど申し上げました半農半X、半漁半Xというところございます。こういったところも幅広く、Xの部分が地域の魅力の部分、個人の方の趣味の部分であったりして、合致する必要はあろうかというふうには思っていますけれども、糸魚川市の持つ魅力をしっかりと知っていただきながら、農業、漁業含めまして、人が来てもらうような取組が必要なのかなというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

地域資源を生かした新たな仕事づくりの研究も必要だと思います。今ほども言われましたけれども、栽培・生産から加工製品化して、販売・直売まで行う6次産業化、そういうことを行うことによって収益を増やすというやり方が、全国でやられております。何を地域資源と見るかということも大事だと思います。若い人たちから見れば、これは仕事になる。あるいはこれを作って販売することで、収益を得ることができるという、新たな視点というのもあると思うんですよね。ぜひそういう新たな仕事づくりの研究もしていただきたいと思います。

前に質問された方に対する答弁の中での取組もあるんですけども、もうちょっと角度を変えて、直接そういう若い人たちに働きかける仕組みづくりといいますか、今市内にある企業が協力しているいろいろなものや、いろいろなことやっていくというの、それはそれで必要ですけども、直接農業、1次産業ということで働きかけていくような仕組みも必要ではないかと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

ご提案のとおりそういった取組は、やはり必要なんだろうなというふうには思っております。先般、新規の若手の農業者の方々との懇談会を開催させていただいたり、また、新たに就農した方たちとの懇談会を開催させていただいております。こういったところでの若い方々の意見をしっかりと聴きながら、その考えを聞き取りながら私どものほうでも、また新たに取組に生かしていけばいいのかなというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

地球温暖化対策では、暖かくなることに対応した作物の栽培方法や温暖化の進行により、温暖な

地方の野菜や果物の栽培は可能になるということもあります。こういうことを関係者間で検討されておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

糸魚川市の9割が水稲ということの中で、今園芸の推進もしていこうということでもあります。そういった中で、現在の気象条件等に合わせた品種というのは選んでいくということになるろうかと思っております。

また、水稲につきましても、新聞等で出ておりますが、新潟大学のほうで暑さに強いコシヒカリの品種を品種登録をしたということもございます。そういったところを情報を収集しながら県、J A、関係者含めてしっかりと協議をし、市の農業の振興に取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

地球温暖化が進むことで起こる現象に対応する対策では、水田では暗渠排水設備の整備もあると思います。用水路と排水路だけでは、足りないと思います。温暖化が進む中での水管理は、暗渠排水がなければできないところまで来ていると思います。補助事業に独自補助をつけてもやらなければならないと思いますが、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

灌漑用水排水システムの議員の言われるそういったシステムの導入につきましては、現在、圃場整備に取り組む中で議論しているところであります。

ただ、今言われるとおりのやはり経費的な負担等々が問題になっているところもありますので、なかなか市が単独でつけるというのはなかなか難しいということでもありますので、国の制度をしっかりと利用しながら、また、農業者の方々としっかりと話をしながら、適切な耕作ができるようにケース・バイ・ケースということに取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

先ほども言いましたように、今後問題になってくる課題の一つに畦畔や農道等の草刈りがあると思います。用水や農道の維持管理の問題でもありますが、農業法人や大規模農家の受託面積が増えてくると、起こってくる問題だと思います。ぜひこういう点も考えて取り組んでいただきたいと思います。

います。

地球温暖化が進むことで、起こることはいろいろあると思いますが、河川が洪水により決壊し、水田が被害を受けることも考えられます。今井の山本で行ったかさ上げ圃場整備は、効果的と思いますが、いかがですか。

〔「反問お願いします」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

反問を許します。

○農林水産課長（猪又悦朗君）

申し訳ございません。今ほどのご質問、いま一度お願いできますでしょうか。

○8番（新保峰孝君）

早くしゃべり過ぎて申し訳ないです。

地球温暖化が進むことで、災害、洪水も起きてくると。そういうときに水田も堤防が壊れて決壊して、水田も被害を受けると。それに対応するような形で、そういうことでやったのかどうかは分かりませんが、今井の山本で行った圃場整備は、かさ上げしてやったわけですね、かさ上げしてちゅうか、かなり高くして。あれは新幹線の土砂を入れたんですかね。そういうやり方で圃場を守る。それと同時に洪水防止ちゅうか民家も守ると。そういうふうなやり方が、糸魚川市内でも行われていると。そういうことを言おうと思って、早く、時間がないんで途中省略して言ってしまったんで、申し訳ないです。

今井の山本で行ったそういう圃場整備ちゅうのは、効果があるんでないかということをやったんだけど、内容はそういうことなんです。

○農林水産課長（猪又悦朗君）

大変申し訳ありません。最後の部分だけ、申し訳ありません。

○8番（新保峰孝君）

申し訳ないですね。要するに、堤防より今井の田んぼは低かったわけですよ、かなりね。表土を採って、そこに普通の土地、圃場整備事業のように、今やってる圃場整備事業のように表土を剥いで山にしておいて、下のほう、例えば今井とかあの辺とか下、砂利だったりするわけですけど。そこに表土を除いておいたところに土を入れて、新幹線のトンネル掘削で出た、そういうふうな土砂を入れて、かさ上げをした上に採っておいた表土を乗せて、耕土にすると。その高さが元の高さよりも高くなって、堤防が決壊するときに、ちょっと手を加えれば決壊を防ぐことができるし、それによって水がずっと山本集落のほうに行くのを防ぐこともできると。ほかでもそういうふうな考え方でできることもあるんでないかなということもあって、わかりますか、ここまで。それで、途中ちょっと省略してしまって申し訳なかったんだけど、今井の山本で行ったああいう圃場整備ちゅうのはいいんでないですかということなんです。

○議長（中村 実君）

反問を終了します。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

大変失礼いたしました。

議員ご提案のとおり災害をにらんだそういった取組というのもあろうかと思っております。

ただ、現在の圃場につきましては、そういったところも視野に入れながら耕作条件の改善をしていきたいというところで取り組んでおります。当然、そういった排水等もしっかり改良を加えながら、取り組んでいるところでありますので、そういった理念という部分は忘れずに改良に取り組んでいくんだらうというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、新保議員の質問が終わりました。

担当入替えのため15時35分まで休憩といたします。

〈午後3時31分 休憩〉

〈午後3時35分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。〔15番 田中立一君登壇〕

○15番（田中立一君）

市民ネット21、田中立一です。

発言通告に基づいて、一般質問を行わせていただきます。

1、空き家・空き店舗対策について。

(1) 市内の空き家・空き店舗の現状を、どのように把握しておりますでしょうか。

(2) 空き家・空き店舗の持ち主の把握と、持ち主の意向確認について行っているのでしょうか。

(3) 空き家・空き店舗の活用と移住促進策についての考えを伺います。

2、久比岐自転車道路の活用について。

久比岐自転車道路は、上越市と糸魚川市を結ぶ旧国鉄北陸本線の線路跡地を利用して造られたサイクリングロードで、近年のサイクリング熱の高まりから、海沿いの美しい風景を楽しみながらサイクリングする人たちを多く見かけるようになりました。

今後もこの傾向は続くものと思いますが、この久比岐自転車道路を活用しての観光誘客について